

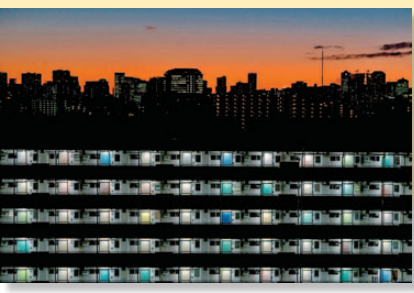
これまでの10年間とこれからの未来

ーフォト&スケッチ展 応募作品を用いた動画から見るUR団地ー

URが毎年開催している「フォト&スケッチ展」。
これまでに集まった応募作品を読み解きながら
団地空間の魅力、団地の未来について話し合いました。

フォト&スケッチ展とは？

- 全国のUR団地の写真とスケッチを募集し、審査と表彰を行う。
- 平成20年度に「全国団地景観サミット」としてスタート。
- 平成30年度で10年目を迎え、応募総数は6,300点に。
- UR賃貸住宅のPRとともに「一般の方が団地のどこに着目しているのか」を知るためのアンケート的な意味をもつ。
- 平成30年度の応募作品は過去最多の957作品。応募者は、UR団地にお住まいの方とそれ以外の方が半々の割合。



2017年団地景観フォト大賞

Introduction

1 メンバーの
自己紹介から
スタート！



コーディネーター

ランドスケープのプランニングで
不動産価値を上げてきたプロ！

池邊このみ氏 Konomi Ikebe

千葉大学大学院教授 ランドスケーププランナー



空間のデザインでライフスタイルを創造する！
「資源」を「資産」に変えることが鍵です。

1980年代にアメリカのカリフォルニア州のアーバインシティで、「共有・共用のランドスケープ空間」について研究。ランドスケープは不動産価値、資産価値を構成する重要な要素であることを学びました。その後、ニッセイ基礎研究所在籍時にURに呼んでいただき、全国148団地を視察して景観ガイドラインや団地のブランディングを中心に事業展開。今は「組織を変える」「公園やまちづくりを新たに始める」ことに取り組んでいます。

トータルデザイン改修で家賃アップを目指す
ということで、景観を含めたURの団地
再生プロジェクトに取り組んでいます。



通常は灌木や生垣で目隠しすることが多いフロントヤード。目隠しを外すことで、住民の方々が自宅の玄関を飾るなどうれしい変化がありました。



UR団地の再生
千葉県浦安市

パネリスト

地域密着、斬新なイベントづくりで
注目のディレクター



柿原優紀氏 Yuuki Kakihara

編集者／ローカルイベントディレクター／tarakusa(たらくさ)株式会社代表取締役／Happy Outdoor Wedding代表

イベント業のテーマは、
「地域の空間と資源を編み直して幸せな光景をつくる」

20代の終わりにメディアの編集とイベントの制作業として起業。〝こんなことができたらいいな〟をかたちにしながら、地域の空間と地域の人を組み合わせ、スキルやお金、食材などいろんなものが循環するようにハレの日をつくっています。

パブリック空間でプライベートイベントも!?

地域の公園や公共空間を管理する側の方たちに、収益を上げられるコンテンツとしてのイベントも提案。公園にセレモニーのゲートやテーブル、屋台などを地元の人とつくり、フードコーナーには地元のママグループの料理を並べて、みんなで飲食や音楽を楽しみます。



松戸のクリエイター2人が、地元のものを使って地元の人たちと江戸川べりで結婚式をつくりました。客席は布のロールを転がして自分でつくる方式。通りがかりの人もワンコインで参加でき、にぎやかで楽しい一日に。

My favorite 「フォト&スケッチ展」応募作品より

「雨にも負けず元気です」 2008年特別賞 豊四季台(千葉県)
どういふふうに敷地を使うかなど、場のビフォー&アフターに興味があります。この作品は八百屋さん。公共の道路などは私的な目的で利用するのが本当に難しいのですが、団地の中は特別なルールがあり、皆さんの信頼関係のもとで特別な光景をつくることができ、豊かだなと思いました。



ハッピー・
アウトドア・ウエディング
千葉県松戸市



新婦が松戸で一番好きだという夕暮れ時の光景のなか橋の上で記念撮影。

ハッピー・
パブリック・ウエディング
愛知県岡崎市



公共空間であるまちの真ん中の公園が会場。その中央で結婚式をして、地域の皆さんが公園で一日飲食を楽しみました。

My favorite 「フォト&スケッチ展」応募作品より

「初夏の屋さがり」 2010年スケッチ大賞
印象に残った作品のひとつ。手を振り合う女性たちは、実はおばあちゃんと奥さんなのです。団地でスプーの冷めない距離に住む親子のシーンが描かれたものです。



吉川団地(埼玉県)

My favorite 「フォト&スケッチ展」応募作品より

「雪の朝」 2016年入賞 荻窪(東京都)
似たような風景が多いといわれるURの団地ですが、自然の風景が映っていると、その地域らしさや、近代的な団地に少しうるおいが加わる気がします。近代的な、人工的な団地に、雪が降って静かになる、この作品もそのような印象的な一枚です。



パネリスト

団地に大学が関わる事例を
研究する大学教授



佐々木誠氏 Makoto Sasaki

日本工業大学建築学部建築学科教授

学生が関わることで、交流が広がった！

埼玉県の武里団地で9年ほど前から活動しています。約6,000戸くらいある築50年の団地で、高齢化率が高いことから、春日部市が家賃を一部補助して学生のルームシェアを斡旋。学生は地域貢献活動が条件で自治会活動を手伝ったり、団地の設計課題をフィールドワークして、成果を発表。企画した食イベントをきっかけに自治会での「ふれあい喫茶」が定例化したり、アルコールが入る交流会が企画されるなど波及効果も生まれています。



フィールドワークの結果を、団地で学生たちが発表。学生を紹介すると気軽に意見交換できることもあり、市やUR、自治会の方々がフラットに話す機会にも。

UR団地での
学生との取り組み
埼玉県春日部市



「団地の夜が暗いのでなんとかできないか」という設計課題を受けて、子どもたちと一緒に廃油でキャンドルを制作。冬至の頃にキャンドルナイトのイベントを実施。



餃子を皮から作るなど、「隣人祭」という食を介して気軽に集まるイベントを学生が中心となって数回開催。自治会の餅つきのお手伝いもしました。

2016年までの応募作品5,416点を対象に、団地で行われるアクティビティの分析を行った結果、広場や公園などのオープンスペースでは、ふだんは人の活動が見られず、逆に階段や通路などの閉鎖的な動線空間で幅広いアクティビティを発見できました。

● 広場や公園では普段はアクティビティが見られなかった。

● 朝晩や通学などの忙しい時間に人々のアクティビティが見られた。

アクティビティ の種類	交通		行動		滞在	
	通勤・通学	帰宅	外出	散歩	通遊	通遊
立寄り・通り	●	●	●	●	●	●
パベンダ			●	●	●	●
広場	●	●	●	●	●	●
公園	●	●	●	●	●	●
公園内	●	●	●	●	●	●
7分歩	●	●	●	●	●	●
広場の下			●	●	●	●

団地には世代を超えた多くの交流があることを知り、団地をひとつの家族のようにとらえ、団地に引っ越してきたひとりの男の子がたくさんの出会いを通して成長をしていく、未来への継続性を表現する動画を作りました！

3 さあ、ディスカッション！ 団地の未来はどうなるか!?

団地内での結婚式（応募作品）